

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

自然と笑顔の美しいむらづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮崎県
宮崎県東臼杵郡北郷村

3 地域再生計画の区域

宮崎県東臼杵郡北郷村の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 特性

北郷村は、宮崎県の北部、東臼杵郡のほぼ中央部にあって、県北部の中心都市「日向市」及び「延岡市」までの距離は約40キロメートルです。東西約20キロメートル、南北約12キロメートルの広がりを持ち、総面積12,017ヘクタールで、周囲を九州山脈脊梁山系に囲まれ、五十鈴川が山峡部を縫いながら村の中央部を貫流して日向灘に注いでいます。総面積のうち、約11,172ヘクタール(約93%)が山林で、耕地は236ヘクタール(約2%)です。

[豊かな森林資源]

林業については、杉生産全国1位で知られる宮崎県の耳川流域に位置し、昔から林業の盛んな地域です。村内の山林はすべて民有林で、人工林面積5,973ヘクタール(人工林率53.5%)となっており、3齢級から7齢級の林分が69.0%を占めています。その多くが杉(約3,973ヘクタール)で、次いでヒノキ(約852ヘクタール)となっています。特用林産物では、クヌギを利用して「しいたけ」の生産を行っており、カシを材料とした「木炭」(年間生産 約400t)の生産も行っています。この木炭は、和歌山県につぐ生産地であり「宇納間備長炭」の銘柄で関東・関西方面へ出荷しています。天然林は4,978ヘクタールあり、「水土の保全」や「森林と人との共生」という方向性から一部の山林を「いのちの森」と指定し村民の永久財産として、下流域住民すべての水瓶(水源)として大切に保存しています。

[豊かな自然]

農業については、1戸当りの経営面積が60アールと零細で、近年、スイートピーやほおずき、ミニトマトなどの施設花きや施設野菜なども導入されているものの、ほとんどが林業との複合経営です。

北郷村の山々は、春には新緑が輝き、夏にはすずしい風が吹き、秋には赤や黄色にいろづいた風景を見せてくれます。中でも、松ヶ下林道沿いに植えられた 600 本ものもみじは、秋にはたくさん人たちが紅葉狩りを楽しんでいます。

清流五十鈴川は、夏には水遊びを楽しむ家族づれが訪れ、国道沿いの「舟方轟」では急流によって侵食された奇岩の群れを見ることができ、この対岸には山ツツジや岩ツツジ、紅葉などがあり、四季を通して訪れる客の目を楽しませてくれるところでもあります。土々呂内溪谷や雄滝などは、流れる水や周囲の風景とあいまって、自然の神秘を感じることもできる場所です。

[大切な歴史・文化]

宇納間地蔵は、江戸時代に延岡藩主・内藤政義公の江戸藩邸を江戸の大火から守ったという言い伝えのある火伏地蔵で、旧正月 24 日の大祭には、県内外からたくさんの参拝者が訪れます。

神楽やねり踊りなどの古くから伝えられている伝承芸能も各地域で後継者育成など行いながら大切に保存していく取組が行われています。

宇納間備長炭は、カシの木を材料に 1,000 度以上の高温で焼き上げる高級白炭で、江戸時代から産地として知られていました。昔から伝えられている製造技術は奥が深く、その製法は親から子へ、子から孫へと伝えられ現在に至っています。木炭利用の用途が広がり健康志向・本物志向もあってか生産と消費は順調に推移しています。

[観光ポイント]

道路については、県北の中核都市とを結ぶ国道 388 号においては、門川から北郷・西郷間(旧県道)が、平成 5 年 4 月に国道に昇格し、平成 16 年 11 月には西郷村境のトンネルが開通するなど、着実に整備が進んでいます。この整備により北郷を訪れる観光客も増加傾向にあります。

「星降る地蔵の里づくり」をテーマに、自然活用型施設である中小屋天文台「昴ドーム」(九州最大級の 60cm リッチークレチアン式反射望遠鏡を備え、全国初の大画面による天体映像表示システム)やキャンプ場「スカイロッジ銀河村」(標高約 1,000m のクヌギの木立に囲まれたロッジ。)を、有することから日向市、延岡市、遠くは福岡市などからキャンプ客らが訪れます。

五十鈴川沿いにある親水公園としての機能をもつオートキャンプ場も、たくさんの客が訪れます。

また、椎野地区の住民が長い年月をかけてあじさいを植栽し整備してきた「あじさいロード」も数多くのお客さんが訪れる新しい観光スポットとして注目を集めています。

(2) 課題

林業については、戦後植栽された人工林が主伐期に入り、本格的な生産期を迎えようとしています。生産量は年々増大し、本村経済の大きな位置を占めることとなります。一方、生産基盤の林道は密度が低く、これを補完すべく作業路の開設、林内作業車等の普及と相まって省力化が進み、生産コストの低減を図っているものの、まだ充分とはいえません。

また、木材加工の拠点である木材加工団地には、中径材までの加工施設がなく、今後生産が増えると見込まれる大径材の処理施設の整備及び木材加工団地の充実が急務であり、それに伴う流通対策も必要です。

特用林産物の椎茸は長年に及ぶ価格の低迷等もあって、生産意欲が低下し生産者も減少を続けていましたが、徐々に価格も安定し、生産者も増加傾向にあります。しかし、生産基盤である人工ほた場の不足や乾燥設備の老朽化等の問題も抱えていることから、安定した収量確保を図るための原木供給体制整備を含んだ基盤整備が急務となっています。

木炭にあっては、安定した価格に支えられる一方、多面的な用途開発等もあり、需要の伸びは期待できるものの、原木対策が課題となっています。また、労働不足や生産の技術を受け継ぐ後継者不足が問題となっています。

農業については、和牛、養豚、緑茶を基幹作物に、米を合理化作物として生産拡大が進められてきましたが、経営規模が小さいことや価格の低迷、高齢化、離農等が原因で生産の増大が難しい状況です。野菜や花き等の生産も行われるようになってきましたが、受託組織や施設整備が不十分であり今後、整備を進めていかなければなりません。そうした中、北郷産の米やしいたけが、姉妹都市沖縄県豊見城市で販売されるという新しい流通の動きが芽生えはじめています。

観光では、村の最大の観光資源である宇納間地蔵尊は依然として大勢の参拝客を招いているものの、周辺環境整備が急務となっています。また、村内の観光ポイント（歴史や文化とふれあえる場所も含む）を結びつける観光ルートづくりが重要な課題です。

村の活性化において道路網の整備は重要な要因で、産業、教育、文化、福祉、医療等全ての分野において多大な影響を及ぼしています。特に、県北の中核都市とを結ぶ国道388号においては、未整備区間が多く、整備を強力に促進することが緊急の課題です。また、生産、観光道路として重要な役割を果たす県道宇納間日之影線や、これら幹線道路と村内主要集落を結ぶ村道も安全性や利便性に欠ける路線が多く、生活生産活動に大きな障害となっています。合わせて、林産地へとつながる林道整備も林業振興を図る上で重要な課題です。

(3) 目標

北郷村では恵まれた豊かな自然の中で、健康で楽しく、笑顔で生活できる村づくりを目標に、「自然と笑顔の美しいむらづくり」に取り組んでいます。

その取組の一つとして、村人の日常生活や生産基盤の根幹をなし、産業、観光の振興や村の地理的ハンディを克服するため、道路網の整備は、必要不可欠です。このため、道路網については、本村と都市部との幹線道路網の整備促進を強力に推進するとともに、これら幹線道路と村内主要集落を結ぶ村道については、重要路線又は広域的機能を有する路線から逐次整備を進めま

す。一方、林道等についても、木材やしいたけ・木炭の原木などを輸送する重要な路線であることから積極的に整備することとします。幹線と村内の村道・林道等が有機的に整備されることで産業、観光、福祉、医療、教育等の充実が期待されます。

豊富な森林資源を活かした主産業である林業の振興に重点を置き、森林の保育、間伐を適正に実施していくことが重要であるとともに、近い将来主伐期を迎える人工林が急激に増加することから、現在の保育作業を中心とした施業体制から、高性能林業機械の導入を含め、伐採を計画的に実施するための体制整備を推進します。合わせて、優良木造住宅供給拠点を目指した木材加工団地の整備充実とともに、その充実のために不可欠な木材加工団地へのネットワーク路線の整備を図ることで、木材運搬の利便性や高性能林業機械を容易に搬入できる条件を整備することで生産コストの低減及び労働の低減を図ります。

また、「やすらぎの場」や「くつろぎの場」を提供するため、森林に求められる多面的な要請に応えるよう、観光と合わせた都市農村交流を促進し活力ある農山村地域の再生を行います。

- (目標 1) 林業の活性化と木材生産流通の拡大(間伐面積5%増加)
- (目標 2) 村道整備により所要時間の短縮
(入下長野線 通行時間10分短縮)
- (目標 3) 都市農村交流を促進、自然に親しむ観光客の増加
(自然に親しむ観光客 20,000人増加)

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

村の中央部を通る「国道388号」を軸に、それに接続する村道「入下長野線」を集中的に整備し農林産物の物流の効率化を図ります。この「国道388号」「入下長野線」を中心に林産地へと伸びる路線を、木材加工団地へのネットワーク路線と位置づけ、林産地へと続く林道の整備(改良・舗装等)を行うことにより木材搬出の利便性を図ります。また、高性能林業機械を利用できる林産地の条件を整備することで木材生産経費の節減にも寄与します。合わせて、自然と触れあえる「やすらぎの場」「くつろぎの場」の提供といった森林の持つ多面的な機能を活用できる道づくり、観光ルートづくりを行います。その他、木材加工団地の整備充実を図るとともに、高性能林業機械の導入整備も行います。農林業の組織育成や後継者育成、木炭生産などの生産技術の伝承等も積極的に取り組みます。

村道「入下長野線」については、昭和59年6月27日に村道として認定を受け、林道「板屋線」「山ノ口・五郎太線」「清水沢線」については、耳川地域森林計画(平成13~23年度)に記載されています。

5 - 2 法第四章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

[施設の種類(事業区域)、実施主体]

- ・村 道(北郷村) 北郷村
- ・林 道(北郷村) 北郷村

[事業期間]

- ・村 道(平成17年度~21年度)
- ・林 道(平成17年度~21年度)

[整備量及び事業費]

- ・村 道 1.0km ・林 道 7.65km

- ・総事業費 698,200千円
 - 村 道 500,000千円 (うち交付金 250,000千円)
 - 林 道 198,200千円 (うち交付金 95,100千円)

5 - 3 その他の事業

木材加工の拠点である木材加工団地は、中径材までの加工施設しかなく、今後生産が増えると見込まれる大径材の処理施設の整備、及び加工団地の充実を行い、それに伴う流通対策も講じます。高齢化や後継者不足から労働力不足が考えられることから、作業路の開設などと合わせて、高性能林業機械の導入を実施します。

森林の持つ多面的な機能を活用できる道づくりや、村内に点在する観光ポイント(中小屋天文台・キャンプ場・宇納間地蔵尊・木炭の里・雄滝・土々呂内溪谷・舟方轟・オートキャンプ場等々)を結ぶ観光ルートづくりを行います。

農林業の後継者育成や木炭生産技術の伝承などの対策も行い、新しく芽生えた流通への対応ができる農業組織の育成や施設整備も実施します。観光ルートづくりと連携した観光イベントの実施などの事業も積極的に取り組みます。

6 計画期間

認定の日から平成22年3月末まで

7 目標達成状況に係る評価に関する事項

4 に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い、状況を把握し公表するとともに、関係団体等からなる「協議会」を開催し、達成状況の評価、改善すべき事項等の検討を行うこととする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し